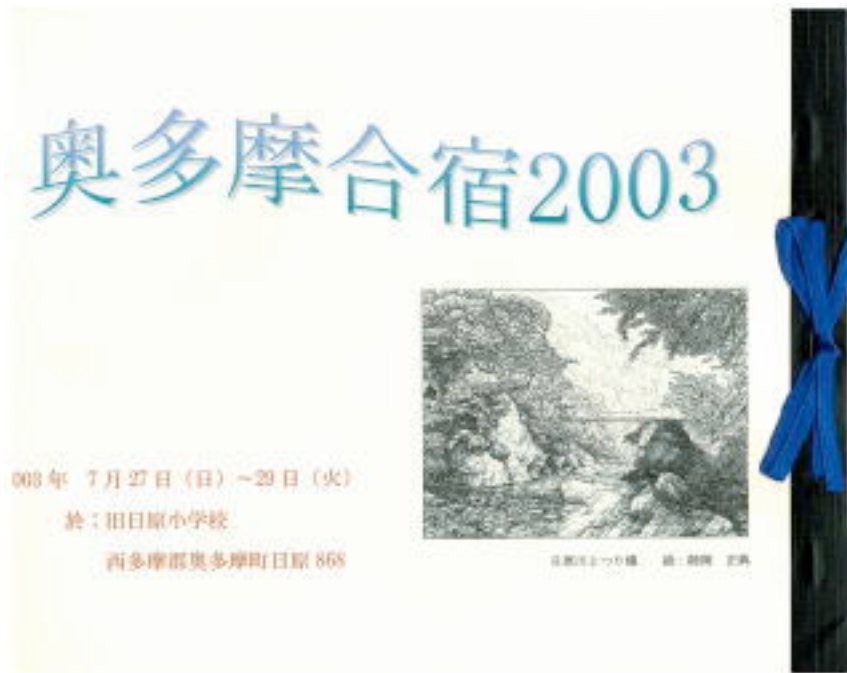


奥多摩合宿での感想文です。 順不同



◆趙 富子

合宿に参加して

思えば、40年位も昔に合宿に行って以来なので、この年になってこういう経験が出来るとは思ってもよらなく、少し若やいだ気分と大好きな「チュム」を朝から晩まで踊れるということで、心浮き立つ気分もありますが、私達には大切な使命があります。

「トムトム・チャリティーコンサート」の舞台が8月9日に迫っているわけですから、気を引き締めて、この3日間を有意義に使って、よりよい舞台のために頑張らなくてはならないのです。20代が1人、30代3人、40代5人、50代3人、そして寿玉先生とオマケの拓（5才）、総勢13.5人が下界を後にして日原の集落にある廃校での生活です。

大自然に囲まれた広い体育館での練習、ゆったりした総檜のお風呂、美味しい食事、本当に申し分のない環境です。

炊事当番、お掃除係と手際によさとチームワークは天下一品で、この中にいる私達は心地よく笑いが絶えることがないのです。勿論、練習中は笑ってられません。練習に関しては、苦勞の連続です。

私達、「プチェチュム」チーム五人は踊りがまだ、不完全で、息が合わなくがたがたです。寿玉先生の熱意に応えようとする気持ちはあるものの、技術が伴わないため、まとまらないのです。

また、中級の基本舞も合間に教えて貰いましたが、見るのと踊るのとは大違いで、その難しさは大変なものでした。来年の合宿ではじっくりと踊ってみたいです。

舞台化粧の講習会、お化粧した顔半分が美しかったこと、夜中を過ぎた午前2時3時までのおしゃべり、そして最終日の野上圭さん宅でのバーベキュー、本当に楽しい思い出もいっぱいです。

正直言って、不安が残りながらの3日間でしたが、無事に舞台を終えてみて、あの合宿があったから乗り越えられたのと思います。不安と緊張感から解き放たれた時は最高の気分でした。自分に対して不満、反省はありましたが、あって当たり前だと思います。その気分を今後の練習に活かして踊り続けたいと思います。

◆朴 信江

合宿の感想は...

食べ過ぎ、飲みすぎ、しゃべりすぎ、笑いすぎ...

過ぎたるは及ばざる、で家に帰ってから一日寝込み。

おかゆをすすりながら「寝てる場合じゃないんだよ。

茅ヶ崎が目の前だよー」と自分にはっぱをかけ。

合宿から公演まで、1つの大きな波の中で。

自分で必死に權を漕いでいた様な。

うねりに巻き込まれ、もがいていた様な。

怒涛の日々でした。

40歳をとうに過ぎて、こんな体験するのも、なかなかないことだと思いつつ、体力の衰えをしみじみ感じさせられた夏の日でした。

◆宮崎 節子

8／9の茅ヶ崎公演のこともあり、7月下旬一泊だけでしたが合宿に参加。東京から2時間ほど、奥多摩駅を降り、日原鍾乳洞方面にバスに揺られること20分、下車して歩くと山に囲まれ「ホーケキョ」と鳥が鳴く少し高台の廃校となった小学校に到着。体育館から舞踊曲が流れ、小さな校庭をはさんでの教室には、みんなの稽古着の洗濯物が干してあり、なんだかずつとここに住んでいる雰囲気漂っている。

体育館には8・9の演目ごとの稽古が進行。私は固城五広大基本舞に合流。30分もするともうずつとここに居た気分になり稽古三昧に浸る。—いい食事、いい時間—すべてを忘れ、作品を身体に少しでもなじませたいとのみんなの思いが、薄暗い体育館に大きく膨らむ。

足腰の痛さに年を実感、でもいいじゃないの。この歳してまで夢中になれるものがあって。夢中になれる時間と仲間がいて。自分を守ろうとするときついけれど、守るほどのものなどないと思えば、仲間の厳しい言葉も、厳しい稽古もなかなか得がたいもの。要はこちらの心の捉え方次第か。一泊だけど、楽しい楽しい思い出の夏の日となりました。

◆林 鮮玉

毎日何かに追われる様に生活している私が、2泊3日の合宿に参加することになり、参加する前から緊張したのか、前日、夜中にもどしたり下痢したりと大変でした。便器を抱えて苦しみながら頭の中は「ああ、どうしよう。このまま治らなかったらプチェチュムは私の代わりは誰がするんだろう、この食料をどうやって奥多摩に運ぶんだろう。」そんなことが頭をぐるぐる廻ってました。

朝起きるとなんとか元気になり、無事参加できました。やっぱり一日中、踊りのことに専念できて、とても有意義な時間でした。

今回初めて中級の基本を少し習ったのですが、とても奥深く、ただ見ているだけと全然違いました。

前に進む、後ろに下がる、その動作だけでも初級の基本プラス複雑な動きが加わり、身体のひねり、ふくらみ、左右の腕の動き、それらを呼吸で、しかも全身に満ち溢れるように...

微妙な動きも多く本当に難しかったです。

初級の基本も難しいのですが中級の基本を制覇するためには腹筋、背筋等、筋力もつけないとつづくと思いました。

いつか気持ちよく中級の基本を踊れるよう、日々努力しようと思います。まずは体重を落とすところから始めなくてははいけません。私にとっては最大の難問です。

練習以外のことでは、終わったあと、皆と一杯飲みながらいろいろ話せた事が良かったと思います。踊りに対する考え方、練習に取り組む姿勢など、私自身、いろいろ考えさせられました。酒の力を借りて本音が出たりして、これもまた、寝食を共にする喜びだと感じました。

私個人としては会計係として、またもや赤字が出たこと、深く反省しております。何でも多ければいいというものじゃない事を肝に銘じ、これからは分量を加減しようと思えます。

朝、必死で食料を車に積み込むとき、我が娘に言われました。

「オンマ、何日間の合宿？参加者、何人？」

「えっ〜と、2泊3日で15人ぐらいかな？」

すると娘が「まじ?!なんか多すぎない?相撲部屋じゃないんだからさあ。」

私はかえす言葉もなく...

来年こそはピッタシカンカン目指し、がんばります。

◆橋本 幸子

奥多摩合宿に参加して

山好きの私にとっては、奥多摩は年に2〜3回は訪れる所である。今回の合宿は、日原という地域、日原もまた、私にとっては思い出深い地だ。今から約30数年前、この地の奥に聳える天祖山という山が良質の石灰岩採掘のために破壊されるという事態に陥った。自然保護運動も主軸として活動していた山岳会は、この山の保護のために立ち上がり毎週のように地元住民や登山者に保護を訴えた。虫くい状態になったものの、なんとか、くい止めることができた。30数年経た現在、手にしていたピッケルには扇を持ち、はいた登山靴はポツンと変わり同じ地に立っている。人生とはなんとも不思議なものである。

合宿は日常と切り離して行われるので、やはり集中度が高い。ましてや野猿までしばし見学にやって来るといふ緑豊かな所なのでなおさらだ。また寝食を共にすることで、踊りの場では見られないその人となりや垣間見ることができ、親近感も強まる。さて練習課題であった中級の基本舞は、もの覚えの悪さでは決して他者にひけをとらない私に

とって、ウロウロ、オロオロのしどろしどろであったが、一日三食、山盛りのおいしい食事に大いに励まされてなんとか練習することができた。また固城基本舞は茅ヶ崎の公演が目前に迫ったこともあってかいやおうなしに緊張感や気迫も高まりなんとしてもやらねば！ と自らにも叱咤した。期せずして合宿と公演の日程がタイミングよく組まれたことに幸運だと思った。

ふだんの練習時、先生に「合宿でなんとかしようと思っているなら甘いわよ！」と、まるで心をみすかされて言われいたので、時の女神に感謝である。また広い練習場であったため場を区切って時間を効率よく使えたことや、お互いに教え合ったり、確認し合えたりしたこともありがたかった。こうして無事3日間の合宿は終わることができたが、踊るということは自らが止めようと思うまで続く。「あなたはなぜ踊っているの？」、このごろ、はあ、と気づくとこの言葉を自問している。自問は心身のあちこちにぶつかりなかなかすんなりとは出てこない。出てこないから踊っているのかもしれないが。「あなたは何故山に登るのか」「山がそこにあるからだ」こんな名言を冗談でもいいから言ってみたいものだ。踊るにしろ、止めるにしろ、この課題は私に与えられた大事なこととしてもち続けていきたい。

◆丁 宣希

静かな 山の中 なにも かも 忘れて 舞踊だけに

夢中に なり そうな ふんいきで 非常に 良い所 でした。

2泊3日で朝から夕方まで よく踊りました。

風邪をひいてしまい 頭が ポウツと しましたが

風邪に 負けない ように 良く 食べました。

私が好きな 韓国料理でした。

茅ヶ崎の公演があったので 早く 順番を 覚え なく

てはと 思い ひたすら 練習に はげみました。

ブチェチュム チームの 応援が あったので リラックスに

練習する ことが 出来ました。 夕食の後 オンニたちが

笑わせて くれたので 楽しかった ですが もう少し 日本語を

うまく 話せれば もっと 話の 中に 入れましたが

聞くだけに なって しまい 少し 残念でした。

私が 日本で こんなに 舞踊で 活動する ことが

出来る とは 思っても いませんでした。

これからも 皆さんと 一緒に ずっとずっと

踊り つづけて いく つもりです。